

普及活動情勢報告（平成27年10月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

ピーマンの更なる収量アップを目指して ～炭酸ガス施用の試験調査が始まりました～



環境測定装置

土佐市のピーマンにおいて、炭酸ガスを施用した増収効果について試験を実施しています。農業改良普及課では、本園芸年度も9月より環境測定装置を設置し、生育調査を開始しました。昨年度の環境制御技術導入加速化事業により炭酸ガス発生装置や環境測定装置を導入した生産者も多く、それらの圃場で出来るだけ多くのデータを収集していきます。また、さらなる所得アップに向け、炭酸ガス施用だけでなく、環境制御（温度や湿度など従来の管理）の見直しについて可能性を探り、情報提供をしていきたいと考えています。

新規就農者への個別面談 ～就農状況現地確認～



新規就農者への個別面談

9月28日から10月にかけて、土佐市と農業改良普及課で新規就農者との個別面談を行いました。今回の対象者は、土佐市内の就農5年目までの27経営体を対象には場確認や農業決算書を基に経営内容や現状での課題、経営計画の聞き取りを行いました。経営収支では、近年、天候の不順による生育不良や植え直し等の話もありましたが、制度資金の活用や経営収支から栽培技術面でのフォローを行いました。農業改良普及課は、次の面談で、今作の状況を踏まえた所得の向上のための助言や情報の提供を行っていきます。

平成28園芸年度のオリエンタルユリ販売に向けた出発式 ～JAとさし高石支所花き部会～



出発式の様子

10月5日に平成28園芸年度のユリ販売に向けて17社（参加18名）の取引市場と出発式を行い、生産者等24名が参加しました。会では、出荷計画の説明とともに農業改良普及課とJAの作成した作型図を示し、出荷の多くなる時期の販売方法を参加者で検討しました。農業改良普及課は、本園芸年度も、安定出荷と品質の向上を目指して産地を支援していきます。

野菜・果樹の栽培について学び、調べ、触れることで児童の関心が高まる
～いの町でショウガ及び梨の出前授業を開催～



ショウガの説明を受ける児童

10月7日のいの町川内小学校のショウガを皮切りに、いの町小学校延べ5校、約110名を対象にショウガ及び梨の出前授業を行いました。いの町主催で、JA、生産者、農業改良普及課が連携して6年目を迎えています。授業では、ショウガの匂いの強さに驚き、糖度を測った梨の甘さに舌鼓を打ち、野菜に対する疑問を講師に質問しながら、地域で生産されている作物に対する興味が増していきました。

農業改良普及課は、引き続き関係者と連携し出前授業を行い、地域の農産物への関心を高めるとともに、未来の農業の担い手育成の取り組みとして進めていきます。

定植後の現地検討会を行いました
～JAとさしイチゴ部会～



地床栽培の圃場で検討

10月20日、促成イチゴの定植後第1回目の現地検討会が開催され、生産者ら13名が参加しました。

農業改良普及課からは過去3ヵ年の気温データと第2花房の花芽分化の状況を報告し、それらを考慮に入れながら現地で生育状況や今後の管理について検討しました。

生産者らは、連続出蕾させるための施肥方法や温度管理について、熱心に意見交換をしていました。

今後も、農業改良普及課は、花芽分化の状況に注意を払いながら、産地への支援を行います。